



コロナ禍で自粛していた大人数での集まりやお弁当配付などの活動を再開する動きが見受けられています。こうした取り組みを行っている校(地)区社協の活動をご紹介します。

「サロン交流会」で活動のヒントを



校(地)区社協では、校(地)区内にあるサロンへの支援の一環として、サロン運営者どうしの情報交換会を行っています。他のサロンの活動や工夫、悩みなどを共有し、今後の充実したサロン活動へつなげています！

参加者の声

「サロンを行う意味を考えることが大切。私達のサロンは地域の健康づくりのためにしています。」
「新しい人が参加したくなるような、興味がわく活動をするには、何をすればいいのかわかりません。」
「新しい人は口コミじゃないと、なかなか入ってこない。チラシ配布や回覧板を活用した募集、サロンだよりの発行などについても、積極的に行っていきたいです。」



プログラムの参考になるハンドベル体験



各サロンで情報交換をしました(春日校区サロン交流会)

サロン交流会の取組例

- ① 市社協からサロンへ情報提供
サロンの活動状況、人気行事など
市内全域、校(地)区の特徴を踏まえ情報提供
- ② サロン運営者から活動紹介
活動の実施状況や活動内容の紹介
サロン活動への思いや悩みなどを共有
- ③ 意見交換 他
他のサロンへ聞きたいことがあれば質問

「地域ふれあいサロン」って何？

高齢者の集いの場であるサロンとして大分市社協に登録されているサロンは、現在約280サロンあります。概ね自治会ごとに設置され、仲間づくりや介護予防などを目的に、住民が主体となり、特色のある活動を行っています。

サロンコーディネーターから一言 大分市社協はサロンへの支援を行うための職員を配置しています。

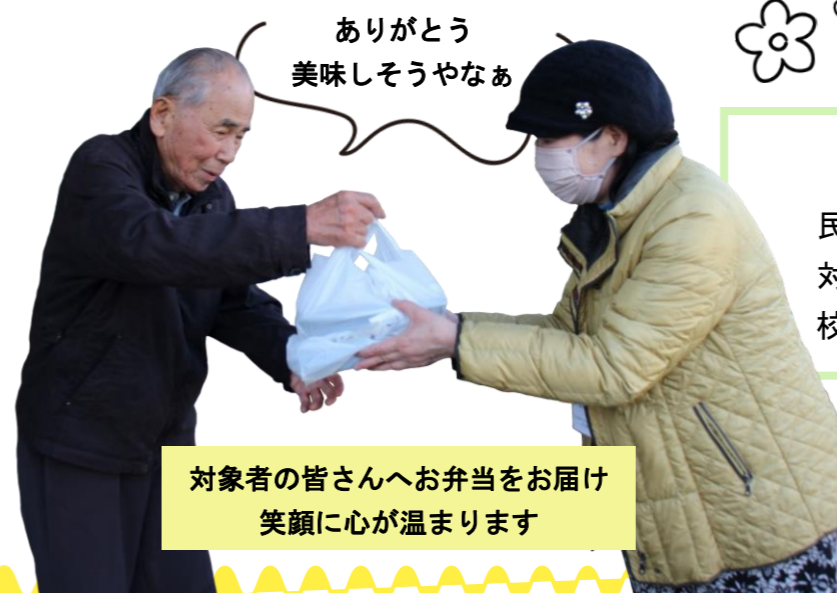
「新型コロナウイルス感染症が流行してから、活動を自粛するサロンさんが多かったのですが、徐々に活動を再開するサロンさんが増えています。サロン交流会を開き、代表者間で情報共有することは、サロンの活性化にもつながります。これからもサロンコーディネーターとして、校(地)区社協が取り組む交流会の開催を支援します！」

2年ぶりに復活！お弁当配付

令和5年1月21日(土)、三佐校区社会福祉協議会では、70歳以上の一人暮らし世帯と80歳以上の高齢者のみ世帯を対象に、お弁当配付を行いました。この取り組みは、昭和55年から続いていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年間実施することができませんでした。今年度は実施に向けた話し合いを重ね、福祉協力員さんを中心に、校区公民館、民生委員・児童委員さん、自治会長さん、ボランティアなど、たくさんの方の協力を得て、実施することができました！

福祉協力員さんの声

「コロナ禍で気軽に会うこともできず、心配していました。対象者の元気な姿を見ることができ、安心しました。」
「皆で工夫して作ったお弁当は、大変美味しく喜ばれました。自分の得意を活かせ、楽しかったです。」



ありがとう
美味しそうやなあ

対象者の皆さんへお弁当をお届け
笑顔に心が温まります

「福祉協力員」って何？

三佐校区では、地域福祉を充実させるため、民生委員・児童委員に協力しながら、ふれあい対象者への見守りや声かけ活動などを行う、校区独自の「福祉協力員」を配置しています。

つながる・ひろがる 「小さな困りごと支援」

高齢者が抱える生活上の小さな困りごと(電球交換等)への支援を行う校(地)区社協が増えています。令和4年度は、既に活動を実施している校(地)区と、これから活動を始めようとしている校(地)区の活動者どうしで、活動の担い手や支援内容などについて話し合いました。

参加者の声

「各地域で同じ悩みを抱えていることが分かり、その対応について意見交換ができました。ボランティア募集や活動紹介など、目的に応じてチラシの内容を見直していく必要を感じました。」
「同じ活動をしている地域の状況を聞いて良かったです。地域によって支援が違うことが分かりました。無理なくスタッフ、サポーター、利用者との関係を持って、続けていけたらと思いました。」

こうざき、松岡、南大分、城南、荏隈、三佐、大在、坂ノ市、小佐井、丹生、判田、寒田、鶯野の13校(地)区社協で情報交換をしました



グループに職員も入り情報交換をしました

令和4年度校(地)区社協活動研修会

会場参加者、オンライン（ZOOM）参加者あわせて、延べ208人の方に参加いただきました！

Withコロナの地域福祉活動

エアロゾル（浮遊するウイルス）への感染対策

サーキュレーターや扇風機を活用して、換気を徹底しましょう。
常時、空気の流れをつくるのがポイントです。
マスクの着用など、基本的な感染対策も忘れずに行いましょう。



講師 山内 勇人氏
在宅支援クリニックえがお代表
一般社団法人共生社会実現サポート機構
みんなのえがお代表
えがおスポット代表

共生社会の取り組み

山内先生方の取り組む「とんとんとん」では、年齢、性別、ジェンダー、障がいの有無を問わない、居場所づくりを行っています。支援する側とされる側に分かれるのではなく、お互いのできることをしながら、全ての人々が安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

参加者の声

「空気の流れを作ることが大切」この言葉の意味を考え、実施しようと思います。」
「今後、地域で新たな活動を考える際の大きなヒントをいただきました。」
「地域共生社会への取り組みが自分の地域でも実現できれば良いと強く感じました。」

認知症を地域で支える



認知症について

分かりやすい認知症の見分け方はありません。
個人差や類似症状などがあり、総合的な判断が必要になります。

認知症への取り組み

「物忘れ相談会」や「茶話会」など、当事者や介護者に向けての相談会を開いています。相手を否定しないことや関係機関と連携をとること、来たときよりも笑顔で帰ってもらうことを意識し、活動しています。また、当事者が認知症の人を支える「ピアサポート活動」や親子で育児と介護について考える「しましまカフェ」など、認知症を理解し、支え合える社会づくりに取り組んでいます。

講師 荒金 理恵氏
城東地域包括支援センター
認知症地域支援推進員

参加者の声

「近所の人たちと話し合い、普及啓発の活動に協力していきたいです。」
「誰にも相談できずに悩んでいる方を見守り、支えられるように、勉強したことを役立てたいです。」

今後も引き続き、地域福祉活動の参考になるよう、研修会を開催していきます！

地域連携を考える～学校×地域～

子どもの問題の複雑化「虐待」「貧困」「ヤングケアラー」

以前は学校の中で解決できたことも、家庭内の問題が複雑化し、地域の皆さんと一緒に考えないと解決できない問題が増えています。



学校と地域の取り組み「チームアプローチ」

大分市内にある全ての小・中学校に学校運営協議会が設置され、学校と地域、専門機関等がチームを組み、学校と子どもが抱えている困りについて、解決に向けての活動をしています。学校で過ごす姿と地域で過ごす姿は違います。地域の子供たちを見守る中で気づいたことがあれば、学校へ情報提供をお願いします。

参加者の声

講師 佐藤 由美子氏
大分大学教育学研究科教職開発専攻特任教授

「子どもを地域で育てるために子どもと地域の人が出会う機会をつくることから始めようと思いました。」
「昔は教育は学校、躾けは家庭という考えの人が多かったと思いますが、今日では学校と地域、両方の連携が必要だと実感しました。教育者側からの説明は新鮮に感じました。」

取組発表～活動の担い手づくり～

「金池こどもみんなのひろば」の取組

発表者 ボランティア金池 金池こどもみんなのひろば 宗 矩子氏

ボランティア金池の分科会の一つとして、料理が好きな方、子どもと遊ぶのが好きな方など、それぞれの得意を活かし、運営をしています。いつもひろばに参加している方から運営に協力を得られることもあり、地域のことは、地域で暮らしている人じゃないと分からないと実感します。これからも、子ども達だけでなく、皆の居場所として、地域のつながりを深める場として、活動をしていけたらと思います。

「地域福祉の担い手づくりモデル事業」の取組

発表者 敷戸校区社協会長 池永 雅典氏

小地域福祉ネットワーク活動の充実・強化や校(地)区社協が必要とする担い手を育成するための取組です。敷戸校区社協地域福祉活動計画に掲げた目標「ちょっとした困りごと支援」を実施するため、各自治会単位での助け合い活動の支援に取り組んでいます。各自治会で、サポーター（支援者）とコーディネーター（調整者）を選出し、8自治会中3自治会で活動を行っています。各自治会の中で方法を決め、回覧や声かけなどで担い手を募集しています。



講師の方もグループに入り話し合いをしました

取組発表の後、発表を聞いて感じたことや活動の担い手を増やすために必要なことなどを各グループで話し合い、全体で共有しました！

担い手づくりのキーワード

「地域の特色」「地域の連携」「制度の情報」
「スタートする意欲」「楽しさの共有」
「一人ではなく、皆で、地域ぐるみで」